

METAL RECYCLE BUSINESS COMPANY



# 2018年度環境活動レポート

(対象期間:2018年 10月～2019年 9月)

発行日: 2020年1月4日  
改定日: 2020年7月24日

# 2018年度 環境活動レポート

## 目次

- I. 〈環境理念〉  
〈環境保全への行動指針〉……………P2
- II. 登録事業所の概要……………P3
- III. 主な環境負荷の実績……………P6
- IV. 環境目標及びその実績……………P6
- V. 環境活動の取り組み計画と評価、  
次年度の取り組み内容……………P8
- VI. 環境関連法規制等の遵守状況……………P14
- VII. 代表者による全体の評価と見直し……………P15
- VIII. その他の取り組みを紹介……………P15

## I. 《有限会社 金田商事 環境方針》

「人と資源のストーリーを見つめ続け、  
新たなる価値の創造を通して、社会に貢献する。」  
まずは、身近な金属から。

弊社は、「資源の掘り起こし・再発見」を推し進め、微力ながら循環型社会形成の一助となることで、社業も発展させていくことを目標としております。  
そのために、社員一丸となって粛々と事業を行なっております。

### < 環境理念 >

弊社は、再資源化が可能である金属屑の売買とそれに付帯する業務を主要事業としており、まさにリサイクルフローの一端を担う企業としての責任から、すべての事業活動において発生する廃棄物の有価物化および再エネルギー化の方法を探求・実行し、それと併せて省エネルギー化・省資源化・省力化を推し進め、経済性と環境負荷低減の効果を相乗で高める努力を自主的かつ継続的に行ないます。

人類を含む地球上の生物にとって、共通の財産である環境を保全・改善しつつも、持続可能な発展を遂げるため、ここに弊社の環境方針を定めます。

### < 環境保全への行動指針 >

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
  - ①二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量削減。
  - ②一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量削減。
  - ③節水による水資源使用量の削減。
  - ④社会全体の有価物及び産業廃棄物の適正な資源循環を推進するため、取扱量の増加を目指す。
  - ⑤グリーン購入の推進。
  - ⑥地域貢献活動の実施。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
3. 環境への取り組みを環境活動レポートとして、取りまとめ公表します。

制定日：2009年11月1日

改定日：2020年07月24日

取締役社長 **金田 大地**

## II. 登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

有限会社 金田商事  
取締役社長 金田 大地

(2) 所在地

本社: 兵庫県伊丹市口酒井2丁目7番21号 工場も同所在地

(3) 設立年月

平成17年10月3日

(4) 資本金

金1,600万円

(5) 認証・登録の対象組織・活動

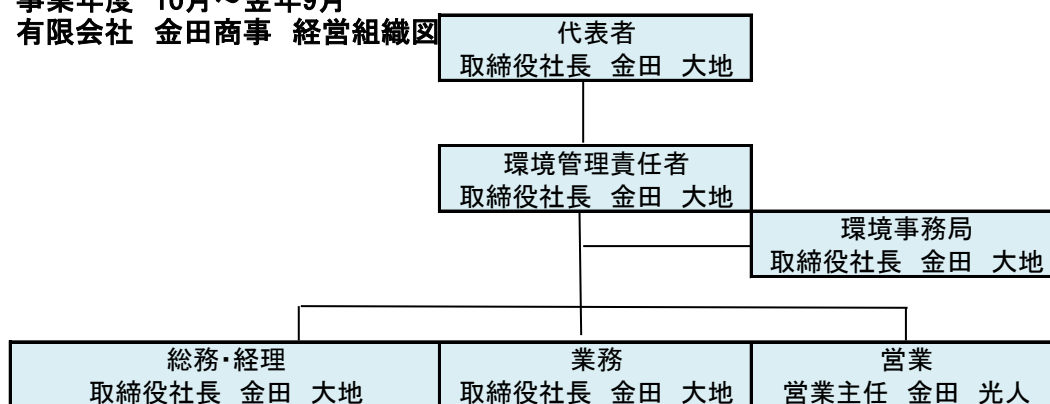
登録事業者名: 有限会社 金田商事

対象事業所: 本社

活動: 金属くず商(金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買)、古物商(古物の売買)、産業廃棄物収集運搬業

(6) 事業年度 10月～翌年9月

(7) 有限会社 金田商事 経営組織図



・株主 1名。

・取締役(役員) 1名

・監査役の選出義務なし。

小規模企業のため、部・課・部門 等の設置は行なっておりません。

総務・経理	労務・財務・金銭管理に関する業務を行なっております。
業務	商材である金属スクラップ・産業廃棄物の取引全般に関する業務を行なっております。
営業	売上・仕入顧客管理に関する業務を行なっております。

(8) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役社長 金田 大地 TEL:072-785-1708

担当者 同上

(9) 事業内容

金属くず商(金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買)、古物商(古物の売買)、産業廃棄物収集運搬業

(10) 事業の規模

総売上高 3.31億円 (2018年度)

主要商品取り扱い量 6,975t (2018年度) ※事業年度期末時点

活動規模	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
取り扱い数量	t	6,204	6,886	7,142	7,064	6,975
内訳: 金属スクラップ	t	6,198	6,882	7,117	7,032	6,938
内訳: 産業廃棄物 (収集運搬)	t	5.9	3.9	24.9	32.0	36.7
売上高(税抜)	百万円	332	231	339	401	331
従業員	人	5	5	5	5	6
床面積	m <sup>2</sup>	580	580	1,050	1,050	1,050
保有貨物車両台数	台	4	4	4	4	5
保有乗用車両台数	台	2	2	2	2	2
保有荷役車両台数	台	4	4	5	6	6

(11) 関連諸許可

金属くず商(兵庫県公安委員会 許可 第1370500002号)  
金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買。

古物商(兵庫県公安委員会 許可 第631370600038号)  
古物の売買。

◆主たる区分:事務機器類

◆扱い品目:自動車・自動二輪、及び原付・事務機器類・機械工具・道具類

産業廃棄物 収集運搬業

1.)大阪府許可番号 02700132377号

許可の年月日:平成29年1月22日

許可の有効年月日:平成34年1月21日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.紙くず 3.木くず 4.繊維くず 5.ゴムくず 6.金属くず  
7.ガラスくず 8.がれき類 (石綿含有産業廃棄物を含む。)

以上8種類

2.許可の条件 なし

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月22日当初許可

平成29年1月04日更新許可

4.府内の政令市による積替え許可の有無 無

5.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 有

以下余白

(12) 施設の状況

保有設備

	車両詳細	台数	使用燃料・動力	備考
運搬車両	10t積み平ボディ車	2	軽油	1台当期9月末増車
	7t積み平ボディ車	1	軽油	
	4t積みユニック搭載平ボディ車	1	軽油	
	4t積みアームロール車	1	軽油	
荷役車両	2.5t揚力フォークリフト	3	軽油	取引先構内車を含む。
	2.5t揚力フォークリフト	1	ガソリン1台 LPG1台	※ガソリン車5月末廃車 取引先構内車を含む。
	油圧式バックホー(0.25㎡クラス)	1	軽油	
	油圧式バックホー(0.7㎡クラス)	1	軽油	
乗用車両	普通乗用車	1	ガソリン	ハイブリット車
	軽自動車	1	ガソリン	

(13) 処理実績

産業廃棄物(収集運搬)	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
廃プラスチック/混合廃棄物	t	5.9	3.9	24.9	32.0	36.7
産業廃棄物収集運搬 合計	t	5.9	3.9	24.9	32.0	36.7

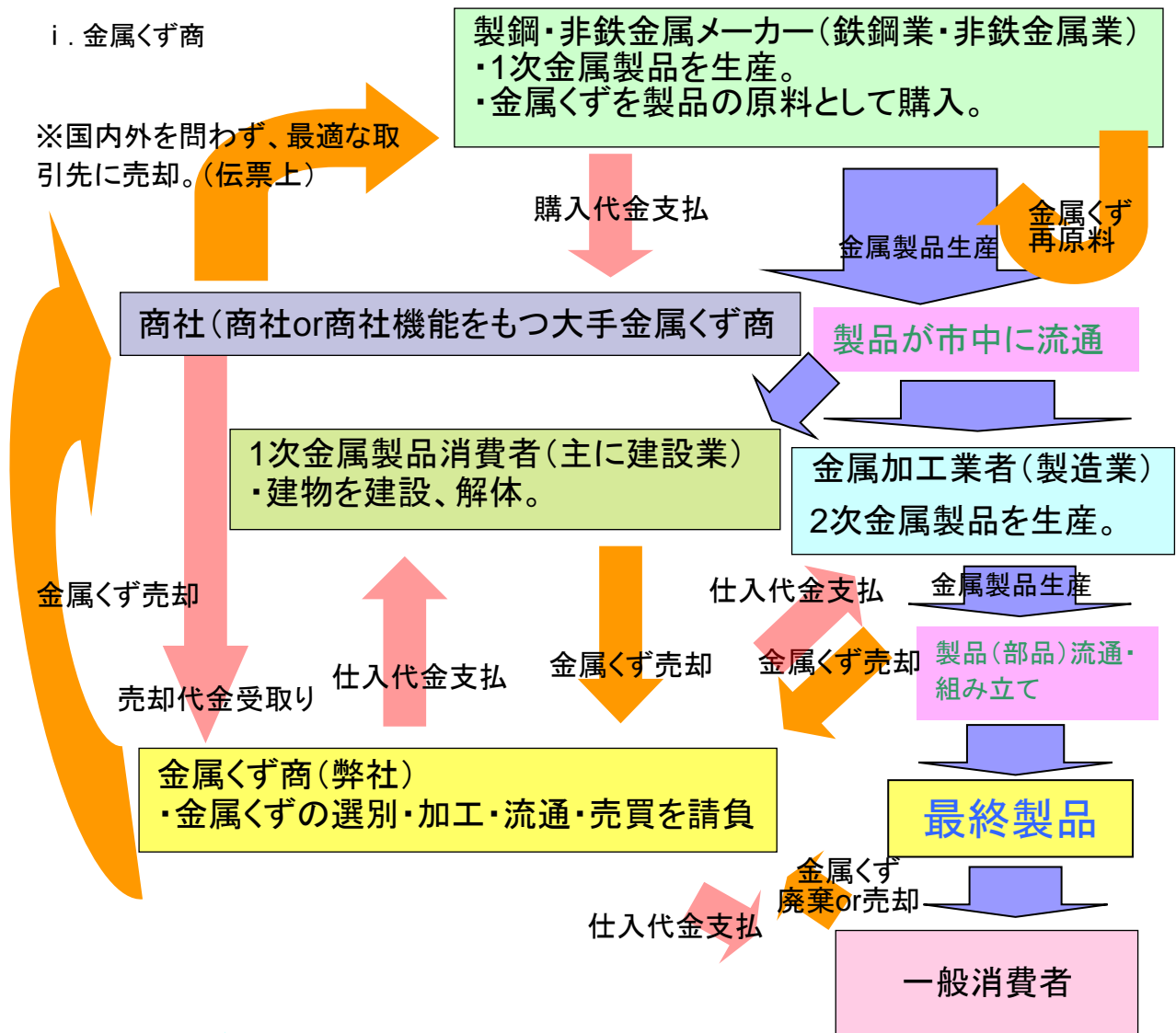
(14) 廃棄物処理料金

取引形態により、各々の見積書並びに契約書により、決定、明示いたします。

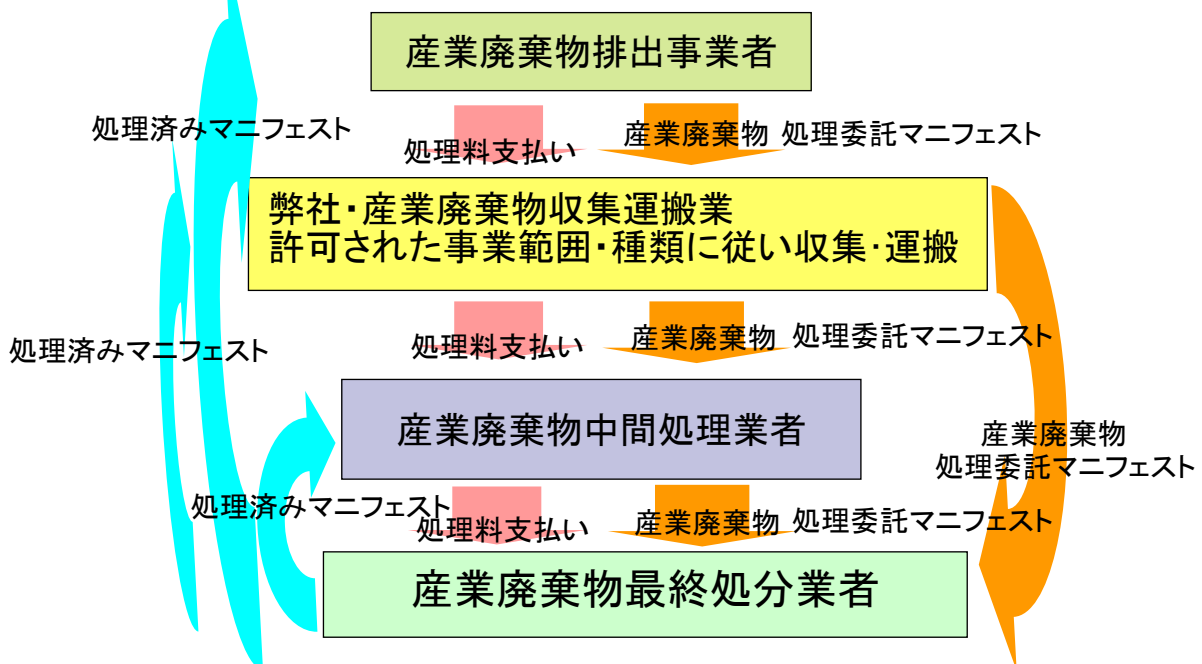
(15) 事業計画及び事業概要

i. 金属くず商

※国内外を問わず、最適な取引先に売却。(伝票上)



ii. 産業廃棄物収集運搬



### Ⅲ. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2014年度	基準年度 2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
二酸化炭素排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO <sub>2</sub>	48,775.14	51,432.13	57,692.65	56,891.44	64,586.22
廃棄物排出量	t	9.148	8.225	1.698	9.202	6.659
一般廃棄物排出量(自社)	t	0.316	0.239	0.278	0.215	0.189
一般廃棄物排出量(選別)	t	1.094	0.950	1.130	1.127	0.570
産業廃棄物排出量(自社)	t	0.010	0.000	0.000	0.060	0.050
産業廃棄物排出量(選別)	t	7.728	7.036	0.290	7.800	5.850
総排水量	m <sup>3</sup>	34.00	32.00	37.00	35.00	42.00
受託した産業廃棄物の 処理量	t	5.93	3.89	24.85	31.98	36.65

※小数点以下の処理方法につき、「目標設定書」と許容可能な極少誤差が生じています。

※電力の二酸化炭素排出係数、2014年度0.514kg-CO<sub>2</sub>/kWh、2015年度以降0.516kg-CO<sub>2</sub>/kWh、2018年度以降0.022kg-CO<sub>2</sub>/kWhに変更。

### Ⅳ. 環境目標及びその実績

#### ・環境負荷削減目標

項目	年度	基準値	2018年度		2019年度	2020年度
			基準年度 (2015年度)	(目標)基準年度 比99.00%~	(実績)	(目標)基準年 度比98.75%~
1.電力の二酸化炭素排 出量削減※1	kg-CO <sub>2</sub>	4,310.15	4,267.05	208.43	4,256.27	4,245.50
	kWh	8,353.00	8,269.47	9,474.00	8,248.59	8,227.71
	原単位:取扱商品1t当たり	kg-CO <sub>2</sub> /t	0.63	0.62	0.03	0.62
2.軽油の二酸化炭素排 出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	43,304.44	42,871.40	58,740.34	42,763.14	42,654.88
	L (L)	16,501.08	16,336.07	22,382.90	16,294.82	16,253.56
	原単位:取扱商品1t当たり	kg-CO <sub>2</sub> /t	6.29	6.23	8.42	6.21
3.ガソリンの二酸化炭 素排出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	1,492.71	1,477.78	2,620.48	1,474.05	1,470.32
	L (L)	642.95	636.52	1,128.71	634.91	633.31
	原単位:取扱商品1t当たり	kg-CO <sub>2</sub> /t	0.22	0.21	0.38	0.21
4.灯油の二酸化炭素排 出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	L (L)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	原単位:取扱商品1t当たり	kg-CO <sub>2</sub> /t	0.00	0.00	0.00	0.00
5.LPGの二酸化炭素排 出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	2,341.53	2,318.11	3,016.97	2,312.26	2,306.41
	kg	780.00	772.20	1,005.00	770.25	768.30
	原単位:全取扱商品1t当たり	kg-CO <sub>2</sub> /t	0.34	0.34	0.43	0.34
二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	51,448.83	50,934.34	64,586.22	50,805.72	50,677.10
	原単位:取扱商品1t当たり	kg-CO <sub>2</sub> /t	7.47	7.40	9.26	7.38
6.一般廃棄物の削減 ※2	総量 (t/人)	0.239	従業員1人当り 0.056t/人以下	0.189	従業員1人当り 0.056t/人以下	従業員1人当り 0.056t/人以下
		0.048		0.038		
7.産業廃棄物の削減 ※3	(kg/t)	0.000	商品数量1t当り 0.18kg以下	0.050	商品数量1t /0.18kg以下	商品数量1t/0.18 kg以下
				0.000		
7-1.有価物から除去廃棄物	(t)			6.42		
8.節水	(m <sup>3</sup> )	32.00	40.00	42.00	40.00	40.00
		5名 使用量1人 換算8.0m <sup>3</sup> /人以 下≤40m <sup>3</sup>	従業員8m <sup>3</sup> /人 以下≤40m <sup>3</sup>	従業員7.0m <sup>3</sup> /人	従業員8m <sup>3</sup> /人 以下≤40m <sup>3</sup>	従業員8m <sup>3</sup> /人 以下≤40m <sup>3</sup>

※1.電力の二酸化炭素排出係数を0.516kg-CO<sub>2</sub>/kWhで換算。2018年度以降、二酸化炭素排出係数を0.022kg-

※2 6.一般廃棄物の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。

※3 7.産業廃棄物の削減の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。

・取り扱い数量目標

項目 \ 年度		2017年度 2015年度	2018年度		2019年度	2020年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
9. 金属屑(有価物)の取扱量(本年度目標:2017年度比102%)	トン	7,031.60	7,172.25	6,937.89	7,315.67	7,461.98
		2017年度比	102%		104%	106%
10. 受託した産業廃棄物の処理量(許可区分:収集運搬のみ)本年度目標:2015年度比102%	トン	3.89	4.12	36.65	4.20	4.28
		2015年度比	106%		108%	110%

・グリーン購入の推進

項目 \ 年度		2015年度	2018年度		2019年度	2020年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
11. グリーン購入の推進 単位:品数・点数	品数・点数	22	25	27	26	27

・地域貢献活動

項目 \ 年度		2015年度	2018年度		2019年度	2020年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
12. 弊社周辺の環境美化と 付近住民様の環境意識向上①清掃活動	単位:回	11	12	18	13	14
清掃活動…空き缶・ペットボトル拾い	単位:本	74	計数管理のみ	21	計数管理のみ	計数管理のみ
項目 \ 年度		2015年度	2018年度		2019年度	2020年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。	単位:kg	94,571.00	98,353.86	91,493.30	99,299.55	100,245.26
		2015年度比	104%		105%	106%



## V. 環境活動の取り組み計画と評価、次年度の取り組み内容

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
<b>I.二酸化炭素排出量削減(全体)</b> 基準年度比99.5%以下 原単位:取扱商品1t当たり	基準年度	51,448.83	kg-CO <sub>2</sub>	× 目標未達成 目標5項目中 達成 2 未達成 3
		7.47	kg-CO <sub>2</sub> /t	
達成手段 下記の1～5による。	目標	50,934.34	kg-CO <sub>2</sub>	評価:悪い。目標が7.40kg-CO <sub>2</sub> /tで実績が9.26kg-CO <sub>2</sub> /tで未達成。総括としての全体評価は、目標値比125.13%で、25.13%上回り、目標未達成。電力が累計目標値に対し大幅減94.6%下回った。軽油は、直納で運搬距離が増長に加え、フォークリフト1台増車、9月末10t車1台増車で、累計目標値比151.2%で目標未達成。ガソリンは、期中5月末まで、フォークリフト1台稼働、ハイブリット車車重増加で、使用量188.1%へ増加。目標未達成。LPGは、構内作業工数が増加で、目標値比151.5%で未達成。灯油は、使用量0で、目標達成。金属取扱量が目標値比97%で未達成、産廃収運目標値比888.8%で達成となったが、上回る原単位の増加。全5項目中2項目しか目標を達成しておらず、かなり厳しい結果となった。化石燃料の使用量と取扱量のバランスが課題。
原単位:取扱商品1t当たり		7.40	kg-CO <sub>2</sub> /t	
1.電力の二酸化炭素排出量削減 2.軽油の二酸化炭素排出量削減 3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減 4.灯油の二酸化炭素排出量削減 5.LPGの二酸化炭素排出量削減	実績	64,586.22	kg-CO <sub>2</sub>	
		9.26	kg-CO <sub>2</sub> /t	
達成手段実践状況評価 下記の1～5による。	削減量	-13,651.87	kg-CO <sub>2</sub>	
	目標対実績比率	1.27		
<b>1.電力の二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	4,310.15	kg-CO <sub>2</sub>	○ 目標達成
		8,353.00	kWh	
原単位:取扱商品1t当たり		0.63	kg-CO <sub>2</sub> /t	
*電力使用量の二酸化炭素排出係数 関西電力(2013年) 0.516kg-CO <sub>2</sub> /kWh。出光プレミアムグリーンパワー0.022kg-	目標	4,267.05	kg-CO <sub>2</sub>	原単位評価を継続。評価:やや悪い。商品数量対の原単位評価。目標が0.62kg-CO <sub>2</sub> /tで実績が0.03kg-CO <sub>2</sub> /t達成。目標値に対し大幅減94.6%下回ったのは、電力供給会社を変え、二酸化炭素排出係数0.516kg-CO <sub>2</sub> /kWhが0.022kg-CO <sub>2</sub> /kWhになったため。電力使用量は増加しているが、CO <sub>2</sub> の排出量は削減。節電と調達電力のCO <sub>2</sub> 排出係数の低さが効果大。ACを省エネ製品へ買い替えも行った。
原単位:取扱商品1t当たり		8,269.47	kWh	
		0.62	kg-CO <sub>2</sub> /t	
①冷暖房の控えめな使用 (冷房28℃ 暖房20℃) ②クールビズ・ウォームビズ運動	実績	208.43	kg-CO <sub>2</sub>	
		9,474.00	kWh	
原単位:取扱商品1t当たり		0.03	kg-CO <sub>2</sub> /t	
③照明・事務機器等の不使用時の電力削減。	削減量	4,058.62	kg-CO <sub>2</sub>	【次年度取り組み】 電化製品の待機電力消費抑制を指示。
		-1,204.53	kWh	
<b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○設定温度を遵守できている。 ②…○適当な服装ができた。 ③…○必要以外消灯、電源OFFを行っている。	目標対実績比率	0.05		

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容	
<b>2.軽油の二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	43,304.44	kg-CO <sub>2</sub>	× 目標未達成	
		16,501.08	L (ℓ)		
原単位:取扱商品1t当たり		6.29	kg-CO <sub>2</sub> /t		
<b>エコドライブ運動展開</b> ①アイドリングストップ ③冷房の控えめ使用 ④増車・買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…○ 増車時、燃費マーク確認済。 ⑤…○ 車検・オイル交換、タイヤ交換等実施。	目標	42,871.40	kg-CO <sub>2</sub>	原単位評価を継続。評価:ほぼ悪い。目標が6.229kg-CO <sub>2</sub> /tで実績が8.47kg-CO <sub>2</sub> /t未達成。取引数量が基準年度比で、96.73%と減少に対し、軽油の消費量が通期累計目標値比151.2%の大幅増加。大型の荷役設備[油圧式バックホー(0.7m <sup>3</sup> クラス)]の稼働時間増加と重機使用の解体選別作業の増加、鉄の電炉製鋼メーカーへの自社便直納、9月末に10t車1台増車が原因。ただ、業務効率と収益性(粗利益、粗利益率ともに向上)は向上しており、評価が難しい。原単位でも、増加しており、電気荷役機の導入検討や燃費効率の向上などの解決策が必要。  【次年度取り組み】バックホウは、燃費効率の良い新車車両との入れ替えを決定済み。	
		16,336.07	L (ℓ)		
		6.23	kg-CO <sub>2</sub> /t		
	実績	58,740.34	kg-CO <sub>2</sub>		
		22,382.90	L (ℓ)		
		8.42	kg-CO <sub>2</sub> /t		
	削減量	-15,868.94	kg-CO <sub>2</sub>		
-6,046.83		L (ℓ)			
目標対実績比率	1.37				
<b>3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	1,492.71	kg-CO <sub>2</sub>	× 目標未達成	
		642.95	L (ℓ)		
原単位:取扱商品1t当たり		0.22	kg-CO <sub>2</sub> /t		
<b>エコドライブ運動展開</b> ①アイドリングストップ ②急加速の抑制  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…○ 車両の買換え時確認済。 ⑤…○ 車検・オイル交換等実施。	目標	1,477.78	kg-CO <sub>2</sub>	評価:悪い。原単位評価を継続。目標が0.213kg-CO <sub>2</sub> /tで実績が0.38kg-CO <sub>2</sub> /tで、前年度に増して低成績の未達成。同じハイブリット車だが、車重の大きい車両への乗り換えたことと、ガソリン使用フォークリフト1台増車(5月末廃車)が原因。フォークリフト1台増車で、手待ち時間が短くなり、作業効率は向上したが、それ以上に取扱数量が伸びなかったことが最大の原因。  【次年度取り組み】フォークリフトのエコ操業、ハイブリット車は、使用を営業活動に限定、エコモードの活用。引き続き、エコドライブ励行を指示。	
		636.52	L (ℓ)		
	原単位:取扱商品1t当たり		0.21		kg-CO <sub>2</sub> /t
	実績	2,620.48	kg-CO <sub>2</sub>		
		1,128.71	L (ℓ)		
	原単位:取扱商品1t当たり		0.38		kg-CO <sub>2</sub> /t
	削減量	-1,142.70	kg-CO <sub>2</sub>		
-492.19		L (ℓ)			
目標対実績比率	1.77				

<b>4.灯油の二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	0.00	kg-CO <sub>2</sub>	○ 目標達成	
		0.00	L (%)		
原単位:取扱商品1t当たり		0.00	kg-CO <sub>2</sub> /t		
①暖房の控えめな使用 エアコンを併用 暖気循環	目標	0.00	kg-CO <sub>2</sub>	年間達成状況: 月次目標達成12回。累計目標達成12回。当年度より屋外スクラップヤードを稼働させたが、電気ストーブ使用で、未だ使用実績無し。  【次年度取り組み】 次年度の使用実績を管理するよう指示。	
		0.00	L (%)		
原単位:取扱商品1t当たり		0.00	kg-CO <sub>2</sub> /t		
②設定温度18℃(暖房20℃以下) ③ウォームピズ運動	実績	0.00	kg-CO <sub>2</sub>		
		0.00	L (%)		
原単位:取扱商品1t当たり		0.00	kg-CO <sub>2</sub> /t		
<b>上記 達成手段実践状況評価</b>		0.00	kg-CO <sub>2</sub>		
①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 設定温度を守っている。 ③…○ 室内でも防寒具着用を推奨。		0.00	L (%)		
目標対実績比率		0.00			
<b>5.LPGの二酸化炭素排出量削減</b>		2,341.53	kg-CO <sub>2</sub>		× 目標未達成
基準年度	780.00	kg			
	0.34	kg/t(原単位)			
エコドライブ運動展開	目標	2,318.11	kg-CO <sub>2</sub>	基準年度 取扱数量(t)	当年度 取扱数量(t)
		772.20	kg	2,278.29	2,847.17
①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③車両整備・点検の実施	実績	0.34	kg/t(原単位)	原単位評価を継続。評価:悪い。 個別原単位目標が0.336kg-CO <sub>2</sub> /tで同実績が0.43kg-CO <sub>2</sub> /t未達成。 LPG車使用の1顧客の基準年度(2015)の取引数量2,278.29トン、当年度2,847.17トンと基準年度は、当年度の0.80倍、当年度は、基準年度の1.249倍となっている。 消費量は、基準年度比151.5%増。車両を新車に入れ替えたが、構内運搬経路変更、工数増加で、手順増加により使用量増加。	
		3,016.97	kg-CO <sub>2</sub>	【次年度取り組み】エコドライブを指示。	
①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 速度超過警報器を装備済み。 ③…○ 特定自主検査実施済み。	削減量	1,005.00	kg		
		0.43	kg/t(原単位)		
<b>上記 達成手段実践状況評価</b>		-698.86	kg-CO <sub>2</sub>		
目標対実績比率		-232.80	kg		
		1.30			

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
<b>6.一般廃棄物の削減</b>	基準年度	0.24	t	○ 目標達成
		0.05	t/人(年間)	
<b>①分別ボックスの設置</b> <b>②裏紙使用</b> <b>③古紙のリサイクル化</b>  <u>上記 達成手段実践状況評価</u> ①…○ 可燃・不燃・資源と分別。 ②…○ 再利用裏紙ファイル設置済み。 ③…○ 再生事業者へ売却。	目標	従業員1人当り 0.056t/人以下	t	評価:良い。2月と3月で、月次目標未達成が発生したが、その他良好。金属スクラップ選別由来一廃と徹底して分別管理を行った。紙の梱包材や古紙に関しては、集積場を設け、一定量になると、古紙問屋で資源として売却した。排出抑制策の継続を指示。 【次年度取り組み】削減に関するアイデアを募ることとした。  (取り組み計画外の取り組み) 商品(金属スクラップからの選別ダスト発生)からの発生量は、当年度は、前年度から減少。再資源化率は、年間で54%と前年から改善。ただ、一廃の定義が厳しくなり、産廃へ回り、そちらが増加しているのので、判断が難しい。
	実績	0.189	t	
	実績(1人換算)	0.038	t/人(年間)	
	削減量	0.05	t	
	削減量(1人換算)	0.01	t/人(年間)	
	目標対実績比率	0.68		
<b>7.産業廃棄物の削減</b>	基準年度	0.00	t	○ 目標達成
<b>①分別ボックスの設置</b> <b>②分別意識の向上を目的とした社員教育</b> <b>③分別の徹底による有価物化</b>  <u>上記 達成手段実践状況評価</u> ①…○ 大まかな品目ごとに分別。 ②…○ 随時、口頭によるミーティングと指導を行なっている。 ③…○ 一部再生事業者へ売却。	目標	商品数量1t 当り0.18kg以下	kg/t	評価:優良。自社由来の産業廃棄物発生量は、全12か月間で、0.05tとごく少量。金属スクラップ選別由来の産業廃棄物と徹底して分別し他結果、好成績につながった 【次年度取り組み】継続した努力を指示。  (取り組み計画外の取り組み) 商品(金属スクラップからの選別ダスト発生)管理・削減目標ではない項目であるが、廃棄物を排出しないという意志で活動を行っているが、前年度期中まで有価物であった選別ダストが、中国の輸入禁止により、当期はすべて産廃となり、再資源化率は0%となった。
	実績	0.05000	kg/t	
	削減量	0.13000	kg/t	
	目標対実績比率	0.27778		
<b>8.節水</b>	基準年度	32.00	m <sup>3</sup>	○ 目標達成
		10.67	m <sup>3</sup> /人	
<b>①洗車頻度と使用水量の管理</b> <b>②手洗い水量の適正化</b>  <u>上記 達成手段実践状況評価</u> ①…△ 洗車は、ほとんど行っていない。給油時、スタンドで簡易洗車をしている。 ②…○ 手洗い時の水の出っ放しをしないよう指示教育した。	目標	40.00	m <sup>3</sup>	基準年度変更。通期において、目標達成。従来通り社内での洗い物や手洗い時にも、皆が節水意識を持って行っており、とても良い。 【次年度取り組み】継続した削減行動を指示と雨水の有効利用を引き続き検討。
	実績	42.00	m <sup>3</sup>	
		7.00	m <sup>3</sup> /人	
	削減量	-2.00	m <sup>3</sup>	
		0.40	m <sup>3</sup> /人	
	目標対実績比率	1.05		
0.95				

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
<b>9.有価物の取り扱い量増加</b>	基準年度	7,031.60	t (トン)	× 目標未達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○仕入顧客登録数前期末比純増数462件 ②…○ 新規取扱品目を案内した。 ③…○ 新規売上先開拓。 ④…○ 海外金属相場情報、国内相場情報取得ルートを確保。	目標	7,172.25	t (トン)	評価: やや悪い。通期累計目標値比96.73%。内訳として、年度後半から取扱量が伸ばせず、取引先の金属スクラップ受託運搬量が、208tと前年度の273tから約2/3に低下。自社取引で、手一杯となり、受託運搬を伸ばせなかったことが、未達成の原因。
	実績	6,937.89	t (トン)	
	増加量	-234.36	t (トン)	ポイントカード活用については、Eメール送信にて、情報提供を行っている。  【次年度取り組み】金属スクラップヤードの活用で店頭持ち込み量を増加させ、人員増員で、受託運搬量も増加させるよう社内体制を整える。
	目標対実績比率	0.97		
<b>10.産業廃棄物の取扱量増加</b>	基準年度	3.89	t (トン)	○ 目標達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…×新規契約数前期末比純増数0件 ②…○ プラスチック廃棄物に関して、提案を行った。 ③…○ 金属スクラップとセットの取引には価格の割引きを行った。 ④…○ 関連省庁、業界団体のHPから情報収集を行なっている。	目標	4.12	t (トン)	評価: 優良。当年度は、既存定期収集運搬の個別数量増え、目標の約9倍の取扱量となり目標達成。  【次年度取り組み】引き続き、金属スクラップ取引のある取引先を重点的に営業活動を行う
	実績	36.65	t (トン)	
	増加量	32.53	t (トン)	
	目標対実績比率	8.89		
<b>11.グリーン購入の推進</b>	基準年度	22	品・点数	○ 目標達成
		14/72	品・点数/全品・点数	
・環境負荷を低減した購買品目を前年度より、目標品数・点数以上増加させる。〔単位:品数・点数〕  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ マークのリストを備え置いた。	目標	25	品・点数	消耗品に関しては、順次、環境対応品に入れ替えが進んでおり、良い。某社カタログには、製品写真ごとにグリーンマークやエコマークが付けられており、購入時、活用している。
		25/87	品・点数/全品・点数	
	実績	27	品・点数	【次年度取り組み】新開発のエコ製品について、常に情報収集を行うよう指示。
		27/84	品・点数/全品・点数	
	目標対実績増加量	2	品・点数	
目標対実績増加率	3.1%	品・点数/全品・点数		

取り組み計画	達成状況		単位:回・本	評価 結果と次年度の取組内容
<b>12.地域貢献活動</b>	基準年度	11 74	回 本	○ 目標達成
<b>①清掃活動。</b> 投棄された空き缶・ゴミ拾い。 実施回数と回収量 <u>上記 達成手段実践状況評価</u> ①…○ 日常の清掃に加え、清掃日を設け行うことが出来た。	目標	12	回	清掃活動・評価:優良。実施回数は、基準年度11回、当期18回で目標達成。曜日を決めて、実施、確認することで、毎月実施できるようになった。空き缶数は、清掃が行き届くことにより、投棄する人が少なくなり、落ちている数が激減し、目標未達成となった。ただ、本来この方が良い。 <b>【次年度取り組み】</b> 引き続き、情報提供、発信に対し、地域からのレスポンスを受け取れるコミュニケーション手段を模索するよう指示。
	実績	18	回	
		21	本	
	対目標量	6	回	
			本	
<b>②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。</b> 目標:買い受け数量を前年度比2%増加させる。 主要買い受け品目:アルミ缶・金属製不用品 <u>上記 達成手段実践状況評価</u> ①…○ 自治会・子供会、伊丹市近郊在住の方から幅広い買取りを行うことが出来た。	基準年度	94,571.00	kg	× 目標未達成
	目標	98,353.86	kg	買受数量…評価:少し悪い。買い入れは、毎月行えている。月次で、3回達成。ポイントカード会員に向けたEメール送信を月に3回「5の付く日」に行い、SNSの活用としてFBの投稿更新、google広告、同マップの改善を行った。 <b>【次年度取り組み】</b> 引き続き、地域に根付いた商売をする施策を取るよう指示。広報活動や地域行事への参画を指示。
	実績	91,493.30	kg	
	対目標量	-6,860.56	kg	
	目標対実績比率	0.93		

## VI. 環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

環境法規制等の名称	要求事項(事業者の義務・責務)	評価方法	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物の適正管理処理。(管理票、処理委託先、報告等)	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
廃棄物処理法 (収集・運搬業務)	産業廃棄物の収集・運搬業務。(許可証の内容遵守、車両、管理票、排出事業者、処理委託先、報告等)	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
消防法	賃借社屋 火災報知機の設置(工場500㎡以上) 第21条の4	防災設備業者による検査実施。2年毎1回	○ 適合
自動車から排出される窒素化合物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NOx・PM法)	自動車NOx・PM法 適合車の使用。	車検証、ステッカー確認。	○ 適合
大阪府流入車規制	自動車NOx・PM法 適合車の使用。車検証 参照。適合車等標章(ステッカー)の貼付。大阪府生活環境の保全等に関する条例第40条の15、16	車検証、ステッカー確認。	○ 適合
使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	第1章第5条(自動車の所有者の責務) 第2章第8条(使用済自動車の引渡し義務) 第4章第73条(再資源化預託金等の預託義務)	車検証、リサイクル券確認。	○ 適合
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	特定家庭用機器再商品化法 第2章第6条(事業者及び消費者の責務)	廃棄の有無	○ 廃棄実績あり。 リサイクル料 支払い済
遵守評価: ○・・・適合 違反なし △・・・改善後、適合(一部問題あり) ×・・・不適合 重大な違反あり			

### □遵守評価についてのコメント

当年度において、環境法規制等の逸脱はありませんでした。  
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

### □訴訟などの有無

本活動期間中はもとより、過去3年間何人からも訴訟等による意義申し立てはありません。

### □外部からの苦情

本活動期間中において、外部からの苦情、申し立て 1件。  
隣接地への埃と鉄スクラップの飛散・・・応急・根本対応実施済み。

## Ⅶ. 代表者による全体の評価と見直し

【総括】大・中・小項目合わせ、全14項目中、達成が8項目、未達成が6項目となり、効果が出やすい項目と出にくい項目で、前年度以上に明暗を分けている。全体評価はイーブン。目標設定において、CO2排出量、産業廃棄物の排出量は取扱商品数量に新たに産業廃棄物収集運搬量を加えた全社総取扱量1t当たりの原単位に設定、一般廃棄物と水使用量は、従業員1人当たりに設定した。環境活動の結果は、前年度とよりやや悪い成績となった。経営面では、取扱量の減少が続いたが、電炉直納による利幅拡大が寄与し、粗利益幅と収益力が向上し、取扱量減少をいくらか補填した。来期目標として、見込み顧客獲得を目指し、効率的な商品の取り扱い数量の増量に挑戦し、原単位環境負荷の低減によるコストダウンも実現し、収益確保との両立を図る所存である。今後の全体の見直しとして、大前提に次年度以降、エコアクション21 ガイドライン【2017年度版】への移行、対応が必要であり、環境経営システムの各要素の変更の必要性については、(以下、必要性 有 無 で表す)

- ①二酸化炭素の排出量削減…有 電力のCO2排出係数の基準同一化が必要、原単位を粗利益額とすることを検討。
- ②廃棄物の削減…有 処理コストの同時把握を検討。
- ③節水…無
- ④有価物の取扱い量増加…有 量も必要だが、質の向上も加味されるべきで、原単位を粗利益額とすることを検討。
- ④"産業廃棄物の取扱い量増加…有 産業廃棄物収集運搬量も、CO2排出量/取扱量1tあたりに加えるべき。
- ⑤グリーン購入の推進…無 そして、目標設定から削除。
- ⑥地域貢献活動…無 買受数量…無
- ⑦環境関連法規制等の順守状況…無
- ⑧緊急事態想定結果/訓練記録…無

以上の見直しをもって、環境目標と経営目標の1本化を実現する。

2020年7月24日

取締役社長

金田 大地

## Ⅷ. その他の取り組みを紹介

### ①緑のカーテン 隣接地農家さんとコラボレーション

スクラップBヤード西側フェンスを隣接地農家さんの協力を得て、遮熱性のあるツル科植物で覆った。



以上